

【1.体制】

消化器内科の常勤医師は2名、非常勤医師は2名。消化器内科学科外来は週4日であり、肝臓専門外来を熊本大学病院から派遣の非常勤医師が週1日担当した。また、内視鏡検査を非常勤医師が週1日担当した。

内視鏡検査実績

(件)

	2022年度	2023年度
上部消化管（処置、検診を含む）	2,198	2,264
下部消化管（処置を含む）	602	559
ERCP（処置を含む）	3	1
超音波内視鏡	0	0

内視鏡治療実績

(件)

	2022年度	2023年度
食道ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	0	0
胃ポリペクトミー（EMRを含む）	8	6
大腸ポリペクトミー（EMRを含む）	146	134
胃ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	7	3
大腸ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	0	0
食道胃静脈瘤治療（EVL, EIS, APC）	1	0
内視鏡的止血術（上部）	7	9
内視鏡的止血術（下部）	3	1
異物除去	3	8
食道狭窄拡張術（ステント、バルーン）	4	1
PEG造設	2	3
PEG交換	6	6
内視鏡的胆道ステント留置術	1	0
内視鏡的乳頭切開術	1	1
内視鏡的採石術	0	1

【2.取組内容と実績】

新型コロナウイルス感染の影響は遷延したが、内視鏡検査件数は上部消化管のみ増加した。また、内視鏡治療件数は内視鏡的止血術（上部）、異物除去、PEG造設などが増加した。

入院症例の高齢化に伴い、何らかの合併症を有する症例が多かった。原疾患は治癒しても、合併症のために入院期間が長くなるケースが多かった。内視鏡手術や化学療法症例が減少し、緩和ケアを行う症例が増加した。新型コロナウイルス感染関連の症例はかなり減少した。消化管疾患においては、腐食性食道炎、進行食道癌、胃毛細血管拡張症、出血性胃十二指腸潰瘍、大腸癌、感染性腸炎、大腸憩室出血などの症例が増加した。肝胆膵疾患においては、肝硬変、総胆管結石性胆管炎、胆管癌、急性膵炎、膵臓癌、高度貧血などの症例が増加した。

主な消化器疾患入院症例数（主病名のみで重複なし）・(例)

	2022年度	2023年度
逆流性食道炎	0	0
腐食性食道炎	1	2
マロリー・ワイス症候群	0	0
食道・胃静脈瘤	1	0
食道異物、咽頭部異物	1	1
早期食道癌	1	0
進行食道癌（術後含む）	0	2
食道胃接合部癌	2	0
胃毛細血管拡張症	0	2
胃ポリープ	4	4
早期胃癌（外科転科症例を含む）	7	3
進行胃癌（外科転科症例を含む）	2	2
幽門狭窄症	0	0

十二指腸ポリープ	1	0
ダンピング症候群	0	0
十二指腸乳頭部腫瘍	1	0
(出血性)胃十二指腸潰瘍	2	4
急性胃腸炎	0	0
急性胃拡張	0	1
大腸ポリープ	23	35
空腸消化管間質腫瘍	0	0
回腸炎	0	0
大腸癌（腺腫内癌、外科転科症例を含む）	3	5
大腸憩室出血	1	6
感染性腸炎（出血性腸炎を含む）	3	5
イレウス（サブイレウスを含む）	2	2
虚血性大腸炎	9	9
潰瘍性大腸炎	0	0
大腸憩室炎	2	2
偽膜性腸炎	0	0
上腸間膜動脈症候群	0	0
S状結腸軸捻転	0	0
S状結腸穿孔	0	0
直腸カルチノイド	0	0
直腸神経内分泌腫瘍	1	1
消化管出血（出血源不明）	5	5
急性虫垂炎	0	0
(癌性)腹膜炎	1	1
腸間膜脂肪織炎	0	0
薬剤性下痢症	0	0
肝障害	1	1
急性肝炎	0	0
自己免疫性肝炎	0	0
転移性肝腫瘍	2	2
肝硬変（肝不全を含む）、腹水	1	1
肝性脳症	4	4
肝細胞癌	4	4
胆管細胞癌	0	0
肝膿瘍	0	0
胆石胆嚢炎（外科転科症例含む）	1	1
総胆管結石性胆管炎	1	1
胆石性膵炎	1	1
胆石疝痛	0	0
胆嚢癌	1	1
胆嚢摘出術後	0	0
急性胆管炎	1	0
胆管癌	2	1
急性膵炎（慢性膵炎急性増悪を含む）	1	1
膵臓癌	1	1
食欲不振、栄養障害	5	5
高度貧血（大球性貧血を含む）	3	3
急性アルコール中毒	0	0
舌癌術後	0	1
嘔吐症	0	2
食道裂孔ヘルニア	0	1
胃石症	0	1
門脈圧亢進性胃症	0	1
膈ヘルニア嵌頓術後	0	1
便秘症	0	1
その他（2023年度：新型コロナウイルス感染5例を含む）	100	119

【3.今後の課題】

新型コロナウイルス感染関連の症例はかなり減少したが、皆無ではない。今後も感染症対策を十分に継続する必要がある。また、スタッフのマンパワー不足の影響もあり、年々緊急内視鏡検査および治療症例は減少している。何とか症例数の維持、増加を図りたい。済生会熊本病院との連携を密にし、地域住民の方々に質の高い医療を提供する必要がある。